

令和3年度 園だより

# こうきた 9月号

杉並区立高円寺北子供園



## 充実の2学期に…

園長 須田 なぎさ

1年延期された東京オリンピック・パラリンピックも開催され、新しいドラマがたくさん生まれました。ひとつのことに懸命に取り組む選手の姿や熱い思いに、感動をもらいました。そして、選手がみんな、いろいろな人への感謝の気持ちを話していたのが、印象的でした。皆さんは、どのようにご覧になりましたか？

さて、夏季休業中に子供園の職員は、普段できないところの掃除、整理整頓などをしました。比較的気温の低い朝に、草とりをして、雑草が生い茂った自然園や裏の畑を整美しました。また、保育者たちは、緊急事態宣言中のため、オンラインが多くなってきている研修会に参加して勉強し、2学期にむけて準備をすすめていました。

私も、新任園長ということもあり、いくつかの研修を受けました。ある研修で「過去1000年で最も偉大な発明はなんですか？」という質問が出ました。皆さんは、何を思い浮かべますか？その研修では、マサチューセッツ工科大学のミッチェル・レズニック教授が、「幼稚園」（フレーベルが創始した）と答えたという紹介がありました。

先生が前に立って、一方的に情報を伝え、それを生徒たちが書き留めて暗唱暗記するというスタイルではなく、幼児に適した環境で、幼児の興味や好奇心を大切にしたい遊びを通した学びが保障される幼稚園のスタイルこそが、人間の生涯に渡る理想的な学びのモデルであると言う、まさに子供園で実践している考え方です。

予測困難なこれからの世の中を生きていく子どもたちには、知識を詰め込むことだけではなく、人間として生きていく根っことなる「心の豊かさ」を、時間をかけて育むことが大切なのです。

夏季保育中に、にじ組は、自然園に行き、ザリガニ釣りを始めました。「何を使って釣るの？」「釣り竿はどうやって作るの？」「ザリガニはどこにいるの？」「友達は釣れるのに、どうして釣れないのかな？」など子どもたちは、様々な問いに直面しています。自然物（ザリガニ）が相手なので、思うようにはいきません。思うようにならないことに向かって、試行錯誤したり、新たな発見をしたりすることが学びにつながっていきます。

ザリガニを釣り上げたとき、大きな歓声をあげて、保育者に伝えようとする子もいます。やっとの思いで釣り上げたザリガニがバケツの中を動き回る様子をジーっと嬉しそうに見つめている子もいました。嬉しい気持ちの表現は様々ですが、この「釣れた」「できた」という喜びが、次への意欲になります。これからのにじ組の子どもたちが、繰り返し釣りを楽しみ、ザリガニと触れ合う中で、いろいろなことに気づき、感じていくことでしょう。

たんぼ組もにじ組も大きく成長するこの2学期に、子供園ではこうした心を揺さぶる経験を大切に、子どもたちの生きる力の基礎・学びの基礎を育めるよう丁寧に毎日を過ごしていきます。

猛威を振るっている新型コロナウイルス感染拡大防止の対策は、引き続き十分に行ってまいります。

2学期も本園の教育保育へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



## 《 9月の保育 》

### ★ 4歳児たんぽぽ組

久しぶりの登園に、ワクワクしている幼児もいれば、少し緊張している幼児など、2学期の初めは色々な姿が見られることでしょう。それぞれの気持ちを丁寧に受け止めながら、一人一人が安心して自分の好きな遊びを楽しみ、園生活のリズムを整えていけるようにしていきます。

9月とはいえ、暑さの残る季節です。水汲み遊びや色水遊びなどの水を使った遊びも楽しめるようにしていきます。

また、体育館や園庭では、走る、ジャンプする、バランスをとるなどの色々な動きをしたり、学級のみんなで体操をしたりして、思い切り体を動かすことの心地よさや楽しさを感じられるようにしていきます。



### ★ 5歳児にじ組

まだ暑さの残る9月初旬は、水遊びや色水遊びなどを楽しんだり、プールで伸び伸びと体を動かすことを楽しんだり、自分なりのめあてに向かって挑戦したりできるようにしていきます。また、ザリガニ釣りや船づくりなど個々のめあてに向かえる遊びを楽しみたいと思います。

様々な運動遊びをする中で、思い切り体を動かす気持ちよさや友達と一緒に気持ちを合わせて動く楽しさを感じられるようにしていきます。そして、10月の運動会を楽しみに、友達や保育者と一緒に体を動かしたり、相談したり準備したりしながら、自分たちの運動会に向けて一人一人が力を発揮できるようにしていきます。



皆様、この夏はいかがお過ごしだったでしょうか。コロナ禍での生活は、工夫と忍耐が必要だったのではないのでしょうか。さて、今回も、特別支援教育についてお話ししたいと思っています。

人にはそれぞれ、得意分野もあれば不得意な部分もあります。子どもたちそれぞれが持つ不得意なこと、苦手なことに手を差し伸べ、自分で出来そうなことを一緒に考え、思いを引き出していくことを子供の園の保育者は大切にしています。言い換えれば、教育の本質であり、別の分野では福祉の考え方の本質であるとも言えます。どの人も、その良さを活かし合いながら、自分の出来ることをして、互いに助け合って生きるという共生の考え方ともいえるのではないのでしょうか。パラリンピックの会長さんも同じようなことを言っていましたね。

では、特別に支援が必要な子どもたちは、どんな特徴をもっているのでしょうか。

☆間に合わない。忘れ物が多く片づけが苦手。初めてのことに緊張。(ADHD不注意優勢タイプ)

→優れた感性。人の気持ちによく気が付く。好きな仕事は丁寧。

☆衝動的。すぐ怒る。待つ、集まり、練習が苦手。じっとしていない。(ADHD多動衝動性タイプ)

→面白い。新しいことを思いつく。実行力がある。役に立ちたい思いがある。

☆感覚が敏感。間違えることや大勢が苦手。一人の世界が好き。(自閉症スペクトラム受動タイプ)

→人やモノ・日付等の記憶力が良い。色彩感覚が独特で才能がある。優しく穏やか。

☆不安や思いの説明が苦手。音、匂いに敏感。慣れる時間が必要。(自閉症スペクトラム孤立タイプ)

→頼まれたことはしようとする。手順通りに行く。時間を守る。何かに打ち込むのが好き。

☆完璧を求める。融通が利かない。感情のコントロールが苦手。1番が好き。(自閉症スペクトラム積極タイプ) →時刻表、電車、展開図が好き。記憶力が良い。規則性が大切。人が好きで繊細。正義のみかた。

上記のようなタイプに分けることはできますが、基本的には一人一人が違う特性をもっているため指導上の配慮や対応は一人一人違います。

さて、みなさんは5つのタイプを読んで何か感じたことはありませんか? 「あら! 私もこのタイプかしら?」「うちの子も似ているかも・・・」「支援が必要なのかしら?」と心配になった方はいませんか?

子どもは大きくなっていく過程で様々な表し方をします。それが成長の過程であることも多くあります。心配なことや不安なことはどうぞ園にご相談ください。子供園では、すべての子どもたちが遊びや生活に安心して取り組み、共に生き生きと育つ保育を作り出していきたいと考えています。

